

No.					市立甲府病院 機能仕様書
Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	Lv5	要件項目
26	1				業務全般
26	1	1			共通基盤機能
26	1	1	1		診療材料、消耗品を管理でき、1システムで扱うことができること。
26	1	1	2		管理対象物品のすべての在庫情報がシステム上にて随時確認できること。
26	1	1	3		マウスおよびキーボードによる簡単な入力ができること。
26	1	1	4		操作端末ごとに、システムの操作ログが残せること。
26	1	1	5		操作を行った際に、いつ、誰が、どの画面のどのボタンを操作したかのログが残せること。
26	1	1	6		患者情報にアクセスした際に、いつ、誰が、どの患者にアクセスしたかのログが残せること。
26	1	1	7		職員ごと、画面ごとに承認、登録、参照の3種類の権限設定ができること。
26	1	1	8		すべての帳票のプレビューができること。
26	1	1	9		すべての画面の検索条件は部門ごとに規定値を設定できること。
26	1	1	10		すべての表形式の明細の並び替え条件の規定値を設定できること。
26	1	1	11		クライアント端末へのインストールが不要なWEBシステムであること。
26	1	2			品目検索機能
26	1	2	1		品目の検索は品目コード、品目名、規格、メーカー名、略称、品目種別、頻度で検索ができること。
26	1	2	2		品目の検索は利用頻度で検索ができること。
26	1	2	3		品目の検索は入力した文字に部分一致する品目の検索ができること。
26	1	2	4		品目の検索はスペース区切りで複数のキーワードによる検索ができること。
26	1	2	5		品目の検索は全角、半角を意識することなく検索ができること。
26	1	2	6		品目の検索はひらがな、カタカナを意識することなく検索ができること。
26	1	2	7		品目の検索は一般名称による検索ができること。
26	1	2	8		品目の検索は名称、規格など複数の組み合わせで検索できること。
26	1	2	9		品目の検索画面で品目に登録してある画像を確認できること。
26	1	3			共通利用機能
26	1	3	1		入力頻度が高い品目/業者/部門については、すべての画面で検索とコードの入力ができること。
26	1	3	2		院内用のラベルはシール、カード、どちらにも対応できること。
26	1	3	3		契約が複数にまたがる在庫がある場合は、先入先出による自動判定と、手動による在庫選択と、どちらにも対応できること。
26	1	3	4		ロット管理ができること。
26	1	3	5		ロット管理はロット情報の入りと出だけを情報として残す履歴管理と、倉庫、部門の在庫管理まで範囲を広げた在庫管理と2種類の管理方法を選択できること。
26	1	3	6		品目ごとにロットの履歴管理、在庫管理の設定ができること。
26	1	3	7		GS1バーコードにロット番号、有効期限の情報がある場合、バーコードを読み込むことでロット情報、有効期限情報を自動でシステムに反映できること。
26	1	3	8		ロット番号、有効期限情報は手動で入力ができること。
26	1	3	9		有効期限切れが切れた品目を利用時に、確認やエラーメッセージによるアラートをあげることができること。
26	1	3	10		有効期限切れが近い品目を利用時に、確認メッセージによるアラートをあげることができること。「有効期限切れが近い品目」の日数の定義を設定にて変更できること。
26	1	3	11		ユニーク番号での管理ができること。
26	1	3	12		ユニーク番号管理は品目単位での管理と、定数単位での管理と管理方法を選択できること。
26	1	3	13		ユニーク番号を記載した2次元バーコードを出力することができ、2次元バーコードを読み込むことで、自動的にシステムで管理できること。
26	1	3	14		品目を表示している表形式の明細から品目詳細ダイアログを表示し、品目に関する詳しい情報を確認できること。
26	1	3	15		数値の入力はキーボードによる入力と、数値入力ダイアログによるマウスでの入力の2種類を選択できること。
26	1	3	16		数値入力ダイアログによる入力では、マウスによる入力を考慮しボタンを数字のボタンをクリックすることで入力ができること。
26	1	3	17		数値入力ダイアログによる入力では、小数点の入力ができること。
26	1	3	18		日付の入力はキーボードによる入力と、カレンダーダイアログによるマウスでの入力の2種類を選択できること。
26	1	3	19		カレンダーダイアログによる入力では、マウスによる入力を考慮し各カレンダーの日付をクリックすることで入力ができること。
26	1	3	20		カレンダーダイアログによる入力では、2回日付をクリックすることで、日付の範囲指定ができること。
26	1	3	21		カレンダーダイアログによる入力では、休日を設定することで、表記を変えることができること。
26	1	3	22		コメント入力では使用頻度が高いコメントを定型文として設定ができること。
26	1	3	23		定型文はワンクリックでコメント入力ができること。
26	1	3	24		各画面で並び替え条件を3つまで指定できること。
26	1	3	25		並び替え条件の規定値を各画面ごとに設定できること。
26	1	3	26		昇順、降順を指定できること。
26	1	3	27		各画面の明細表示条件を複数指定できること。
26	1	3	28		明細表示条件の規定値を各画面ごとに設定できること。
26	1	3	29		表示条件の項目の一括選択、一括解除ができること。
26	1	4			ログイン機能
26	1	4	1		物流システム用のお知らせ機能を表示できること。
26	1	4	2		お知らせ機能の管理部門を複数部門設定できること。
26	1	4	3		お知らせ情報は全情報表示と管理部門ごとの表示と選択できること。
26	1	4	4		お知らせ情報はタイトルと詳細内容を入力できること。
26	1	4	5		お知らせ情報の登録は過去データを流用できること。
26	1	4	6		お知らせ情報は最新情報を点滅表示により明瞭にできること。最新情報としての取り扱い期間は設定により変更できること。
26	1	4	7		ログイン時に利用頻度が高いマスタ情報を取得しておくことで、以後の業務画面での再利用によりレスポンスを早めることができること。
26	1	4	8		業務メニューは部門ごとに変更できること。
26	1	4	9		業務メニューはカテゴリごとに設定できること。(例-カテゴリ:請求、業務メニュー:診療請求、医薬品請求など)
26	1	4	10		複数部門に所属する職員は、所属部門を変更できること。
26	2				請求管理機能
26	2	1			診療部門で品目の請求入力・修正・中止ができること。
26	2	2			請求時の確認のために診療部門の在庫数を表示できること。
26	2	3			請求時にコメントの入力ができること。
26	2	4			1回の入力で複数の品目の入力ができること。
26	2	5			請求区分(請求、臨時、緊急)が入力できること。
26	2	6			請求区分のそれぞれの名称を設定して変更できること。
26	2	7			請求状況(未請求、請求済、受付済、一部完納、完納)を確認できること。

26	2	8		請求状況のそれぞれの名称を設定で変更できること。
26	2	9		緊急の区分で請求時に、自動的に管理倉庫のプリンタに緊急請求一覧表を出力することで、倉庫側に緊急の請求があることの気づきを促すことができること。
26	2	10		利用頻度の高い品目をセットとして請求ができること。
26	2	11		セットは部門ごとに設定できること。セットのメンテナンスを部門ごとに設定できること。
26	2	12		請求価格の表示ができること。表示により請求部門に価格に対する意識をつけることができること。設定により非表示にできること。
26	2	13		部門・品目単位で最大在庫数を設定することができ、上限を超える請求を行った際に入力できないこと。設定によってはメッセージによる警告だけとし、入力を可能とすることができること。
26	2	14		請求用の単位で請求ができること。
26	2	15		セットの中から今回、請求する品目を選ぶことができること。
26	2	16		セットには規定値の請求数を指定ができること。
26	2	17		バーコードによる請求入力ができること。
26	2	18		1日に複数回の請求ができること。
26	2	19		重複請求を避けるため、未払いある品目を請求入力時に確認のメッセージを表示できること。
26	2	20		マスタで請求停止日が設定されている品目を請求停止日以後に入力した場合に入力できないこと。
26	2	21		代理入力を想定し、請求入力部署を選択できること。また権限設定により、一部部署だけ部署変更できるように設定できること。
26	2	22		締め切り時間の設定ができること。
26	2	23		締め切り時間は部門および品目種別および品目種別分類ごとに設定ができること。
26	2	24		締め切り時間は曜日ごとに設定ができること。
26	2	25		請求は承認権限を設定し、登録、承認の2段階の階層を設定できること。
26	2	26		未承認の請求は払出画面に表示できないように設定できること。
26	2	27		登録済みの請求情報の参照では、請求区分、請求状況、品目種別を検索条件に設定できること。
26	2	28		請求一覧表 品目別を出力できること。
26	2	29		請求一覧表 部門別を出力できること。
26	2	30		未払一覧表を出力できること。
26	3			使用管理機能
26	3	1		診療部門で品目の入力および修正ができること。
26	3	2		使用時のコメント、理由の入力ができること。
26	3	3		ロット管理の対象品目はロット番号が入力できること。
26	3	4		ユニーク管理の対象品目はユニーク番号が入力できること。
26	3	5		ユニーク管理の対象品目はユニーク番号の重複入力チェックができること。
26	3	6		使用区分（使用、破棄、破損、紛失、その他）を入力できること。
26	3	7		使用区分のそれぞれの名称を設定で変更できること。
26	3	8		1回の入力で複数の品目の入力ができること。
26	3	9		利用頻度の高い品目をセットとして使用の入力ができること。
26	3	10		セットには規定値の使用数を指定ができること。
26	3	11		1日に複数回の使用登録ができること。
26	3	12		使用期限が切れたロット品を使用時に警告を表示できること。
26	3	13		ユニーク管理品はユニーク番号の入力ができること。
26	3	14		預託品を登録時に、使用した在庫補充のために、自動的に発注情報を作成できること。
26	3	15		使用登録時に、在庫補充の目的で自動的に請求情報を作成する設定ができること。
26	3	16		自動的に請求情報を作成する際は、使用区分、品目種別を検索条件に設定できること。 (廃棄時のみ補充など)
26	3	17		代理入力を想定し、使用部署を選択できること。
26	3	18		バーコードによる使用入力ができること。
26	4			患者使用管理機能
26	4	1		患者ごとに使用した情報を登録できること。
26	4	2		実施日付、品目コード、使用数、ロット情報、コメント、理由、診療行為、入外、診療科、行為、職員を入力できること。
26	4	3		患者情報の検索ができること。
26	4	4		患者情報は電子カルテシステムより自動取り込み検索対象とすることができること。
26	4	5		バーコードによる使用入力ができること。
26	5			払出管理
26	5	1		請求に対する払出機能
26	5	1	1	請求情報をもとに払い出しができること。
26	5	1	2	請求コメントの確認ができること。
26	5	1	3	払出数を手動で入力できること。
26	5	1	4	請求数と倉庫部門の在庫数をもとに、払い出せる量を自動的に払出数として入力できること。
26	5	1	5	請求側で入力した請求数の修正ができること。
26	5	1	6	請求の中止ができること。
26	5	1	7	ロット管理の対象品目はロット番号が入力できること。
26	5	1	8	在庫不足により払い出しができない品目について、自動で発注データ作成ができること。
26	5	1	9	払い出しにより発注点を切った品目について、自動で発注データ作成ができること。
26	5	1	10	請求区分（通常、緊急、定期、自動）、請求状況（未受付、受付済み、受付中止、一部引き当て、引き当て済み）、品目種別、請求部門を検索条件に設定できること。
26	5	1	11	締め切り時間単位で請求情報を表示できること。
26	5	1	12	倉庫在庫数、請求者、棚番号を表形式の明細に表示できること。
26	5	1	13	払出情報の仮登録ができること。
26	5	1	14	仮登録時に仮登録用ピッキングリストを自動出力できること。 実在庫と論理在庫が合わない場合に、仮登録時のピッキングリストをもとに実在庫を確認したのち、実在庫を基に払出情報を修正して本登録ができること。
26	5	1	15	仮登録したデータだけを対象に表示できること。
26	5	1	16	登録時にピッキングリストを自動出力できること。 保管場所情報順に表示することで倉庫作業効率を上げることができること。
26	5	1	17	バーコードによる入力が入力された品目の場所を特定できること。
26	5	1	18	入力した品目に新規品目が設定されている場合で、品目の在庫がない場合には、新しい品目に置き換えて払出処理ができること。
26	5	1	19	新しい品目への置き換え時には置き換え確認が表示できること。
26	5	2		事後払出機能
26	5	2	1	請求情報なしでの事後での払出情報の登録・修正ができること。
26	5	2	2	払出先部署の指定ができること。

26	5	2	3	払出日付、払出先、品目、払出数、コメントが入力できること。
26	5	2	4	ロット管理の対象品目はロット番号が入力できること。
26	5	2	5	1回の入力で複数の品目の入力ができること。
26	5	2	6	1日に複数回の払出登録ができること。
26	5	2	7	利用頻度の高い品目をセットとして払出の入力ができること。
26	5	2	8	セットの中から払い出す品目を選ぶことができること。
26	4	2	9	バーコードによる払出入力ができること。
26	5	3		返品登録機能
26	5	3	1	返品情報の登録・修正ができること。
26	5	3	2	返品元部署の指定ができること
26	5	3	3	返品日付、返品元部門、品目、返品数、コメントが入力できること。
26	5	3	4	ロット管理の対象品目はロット番号が入力できること。
26	5	3	5	1回の入力で複数の品目の入力ができること。
26	5	3	6	1日に複数回の返品登録ができること。
26	5	3	7	バーコードによる返品入力ができること。
26	5	4		移管登録機能
26	5	4	1	部門間で物品の貸借ができること。
26	5	4	2	入力した品目を保有している部署と内線番号を一覧表記できること。内線番号を表記することで、緊急で在庫が必要な場合に、スムーズな物品の貸借を実現できること。
26	5	4	3	部門間貸借情報を登録することで、移管情報を作成し、在庫への反映ができること。
26	5	4	4	自院以外の他施設と物品貸借の登録ができること。登録時に施設名称の入力ができ、登録時は移管情報を作成し、在庫へ反映ができること。（例えば、施設内に分院がある場合や、その他施設があり物品の貸借を行っている場合）
26	5	4	5	移管元からも、移管先からもどちらからの入力もできること。
26	6			定数管理
26	6	1		定数共通機能
26	6	1	1	定数カード、定数シール、定数カート交換方式のいずれの方式にも対応できること。
26	6	1	2	過去の実績から適切な在庫定数をシステムが自動算出できること。在庫定数の算出には払出量や消費量だけではなく、業者からの納品間隔や安全在庫日数が考慮されていること。
26	6	1	3	自動算出した定数をマスタの登録画面に表示できること。画面表示することで確認や修正を行ってからマスタに反映できること。
26	6	1	4	定数補充一覧表を出力できること。
26	6	2		定数カード機能
26	6	2	1	定数カードは使い捨て方式、リユース方式の両方に対応できること。
26	6	2	2	定数が個別に識別ができるように1枚1枚にユニークな番号で管理ができること。
26	6	2	3	使い捨て方式の場合、払い出し時に、払い出した数に応じて定数カードが出力できること。（発行された定数カードを物品と一緒に払い出す）
26	6	2	4	リユース方式の場合は、払い出し時のピッキングリストにユニークな番号が表示でき、どのユニークのカードを払い出すかが把握できること。
26	6	2	5	ユニークな番号により同じカードのバーコードを読み込み時にはエラーになり、重複入力を防止できること。
26	6	2	6	カード一括読み取り機器装置のスタックリーダと連携することで、読み込んだすべてのカード情報を画面に表示でき、手動によるバーコード読み込みの負荷を削減できること。
26	6	2	7	カード返却登録時に補充用の請求データを自動作成できること。
26	6	2	8	設定によりカード返却登録時に消費データを自動作成できること。（定数カードを返却されたものが必ずしも消費されたとは限らないため、見なしの消費データとなる）
26	6	2	9	払い出した診療部門とは異なる部門から返却された場合は、部門間貸借が行われたものと判断し、自動的に移管処理ができること。この自動貸借処理はカードのバーコードスキャンだけでできること。
26	6	2	10	ユニークな番号ごとに、いつ払い出され、今どこにあるか把握できること。カードの紛失に気付くために、払い出して一定期間経過した未返却カードの把握ができること。
26	6	2	11	読み込んだカード枚数を把握できること。
26	6	3		定数シール機能
26	6	3	1	定数が個別に識別ができるように1枚1枚にユニークな番号を保持して出力され、データベース上にユニークな番号が登録管理できること。
26	6	3	2	払い出し時に、払い出した数に応じて定数シールが出力できること。（発行された定数シールを物品に貼付して払い出す）
26	6	3	3	ユニークな番号により同じシールのバーコードを読み込み時にはエラーになり、重複入力を防止できること。
26	6	3	4	定数シールの返却時には患者単位による消費入力と、部門単位によるシール返却入力と両方に対応できること。
26	6	3	5	患者単位による消費入力では、患者別に消費情報を登録できること。登録時に補充用の請求データを自動作成できること。
26	6	3	6	部門単位による返却入力では、登録時に補充用の請求データを自動作成できること。設定により消費データを自動作成できること。（定数シールを返却されたものが必ずしも消費されたとは限らないため、見なしの消費データとなる）
26	6	3	7	払い出した診療部門とは異なる部門から返却された場合は、部門間貸借が行われたものと判断し、自動的に移管処理ができること。この自動貸借処理はシールのバーコードスキャンだけでできること。
26	6	3	8	ユニークな番号ごとに、いつ払い出され、今どこにあるか把握できること。シールの紛失に気付くために、払い出して一定期間経過した未返却シールの把握ができること。
26	6	3	9	読み込んだシール枚数を把握できること。
26	6	4		定数カート交換機能
26	6	4	1	定数を選択時に、定数に登録されている品目と定数が表形式の明細に自動表示できること。
26	6	4	2	定数の残数を登録できること。登録時に補充用の請求データを自動作成できること。
26	7			発注管理機能
26	7	1		発注管理
26	7	1	1	コメント、納品予定日、勘定科目の入力ができること。
26	7	1	2	随意契約品は業者の選択、単価が変更できること。
26	7	1	3	発注点により自動作成された発注予定データを表示できること。
26	7	1	4	新規の入力ができること。
26	7	1	5	自動作成された発注予定について、発注数の修正ができること。
26	7	1	6	自動作成されたデータと手動で入力した発注情報を見分けることができること。
26	7	1	7	自動作成されたデータと手動で入力した発注情報を検索条件に設定できること。
26	7	1	8	発注状況（未発注、発注済、一部納品、完納）を確認できること。
26	7	1	9	発注状況のそれぞれの名称を設定で変更できること。
26	7	1	10	重複入力を避けるために、未納がある品目を登録時に確認のメッセージを表示できること。
26	7	1	11	マスタで発注停止日が設定されている品目を発注停止日以後に入力した場合に入力できないこと
26	7	1	12	1日に複数回の発注入力ができること。
26	7	1	13	期間指定した期間の払出実績および使用実績をもとに、発注予定データを作成できること。（年末年始や、ゴールデンウィークなどの長期休暇時に利用）
26	7	1	14	発注予算額を設定していて予算額を超える場合には警告表示ができること。

26	7	1	15	発注予算額は部門ごとに設定できること。
26	7	1	16	品目ごとに日別の発注実績のグラフ表示ができること。
26	7	1	17	品目ごとに週別の発注実績のグラフ表示ができること。
26	7	1	18	品目ごとに月別の発注実績のグラフ表示ができること。
26	7	1	19	発注予定の発注情報に対して全体の発注予定金額が表示できること。
26	7	1	20	発注予定の発注情報に対して業者ごとの発注予定金額が表示できること。
26	7	1	21	予算科目別の予算状況の確認ができること。
26	7	1	22	入力した発注情報の一時保存ができること。
26	7	1	23	随意契約区分（単価契約、随意契約）、保険区分（非特定治療材料、全額自費負担、保険請求対象）、業者、伝票番号、発注目的、発注状況（通常、緊急、預託）、品目種別を検索条件に設定できること。
26	7	1	24	発注予定一覧表を出力できること。
26	7	1	25	発注登録時に業者ごとに発注書を自動出力できること。 発注番号は自動採番ができること。 直納品目は納品部門ごとに出力できること。
26	7	1	26	発注書の修正、再出力ができること。
26	7	1	27	発注書修正時には、発注書番号または発注日付を指定することにより発注書の内容を表示し発注情報を修正することができること。
26	7	1	28	発注登録時にバーコードラベルを自動出力できること。
26	7	1	29	ユニーク管理対象品はバーコードラベルに個別のユニーク番号を記載できること。
26	7	1	30	発注確定前の予定情報としての登録ができること。
26	7	2		オンライン発注
26	7	2	1	業界VANセンター向けに発注データを外部出力できること。
26	7	2	2	事業者からのASNデータの取り込みができること。事業者ASNデータ電文の仕様に合わせること。
26	8			納品管理
26	8	1		納品登録機能
26	8	1	1	伝票番号ごとに納品登録ができること。
26	8	1	2	伝票番号の一覧から伝票を選択することで明細情報の表示ができること。
26	8	1	3	発注書に記載している伝票番号バーコード読み込むことで表形式の明細情報の表示ができること。
26	8	1	4	伝票番号の一覧は伝票番号、発注日、納品先部門、業者が表示できること。
26	8	1	5	伝票番号の一覧は業者別に抽出ができること。
26	8	1	6	伝票番号の複数選択による一括登録ができること。
26	8	1	7	品目ごとに納品数が入力できること。
26	8	1	8	ロット管理の対象品目はロット番号、有効期限が入力できること。
26	8	1	9	同一品目で過去に納品した有効期限より古い品目を納品した場合、確認メッセージを表示することができること。（業者へ古い品目を持ってこないように依頼することができる）
26	8	1	10	随意契約品は業者、単価が変更できること。
26	8	1	11	バーコードによる入力だけで納品登録を完了できること。
26	8	1	12	納品数の規定値は、発注数と同じ数量の完納状態で表示するか、納品数を0としてバーコード入力によりカウントアップする運用かを選択できること。
26	8	1	13	直納品目は該当する部署に納品されること。
26	8	2		納品修正機能
26	8	2	1	納品情報の修正ができること。
26	8	2	2	納品日付、納品部門から修正対象の納品情報を抽出できること。
26	8	2	3	伝票番号から修正対象の納品情報を抽出できること。
26	8	2	4	一部納品済みの発注情報に対して、これ以上納品されることがないことが分かっている場合は、発注数を減らし完納状態にできること。
26	8	3		事後納品機能
26	8	3	1	発注を行わずに事後で納品データの新規登録ができること。
26	8	3	2	品目、納品数、コメントの入力ができること。
26	8	3	3	ロット管理の対象品目はロット番号、有効期限が入力できること。
26	8	3	4	随意契約品は業者、単価が入力できること。
26	8	3	5	直納品は納入部門が入力できること。
26	8	4		返納機能
26	8	4	1	返納情報を登録できること。
26	8	4	2	品目、返納数、コメントの入力ができること。
26	8	4	3	ロット管理の対象品目はロット番号、有効期限が入力できること。
26	8	4	4	在庫情報が複数契約に分かれている場合は、返納する契約を選択できること。
26	8	5		購入管理機能
26	8	5	1	値引き（値増し）情報の登録ができること。
26	8	5	2	業者一覧から業者を選択することで表形式で納品の明細情報の表示ができること。
26	8	5	3	業者一覧には月ごとの業者名、購入金額が表示できること。
26	8	5	4	品目単位で値引き（値増し）金額が入力できること。
26	8	5	5	登録した情報を統計帳票に反映できること。
26	8	5	6	同一品目を集約して納品数を合算する表記と、納品情報ごとに明細を表記と選択できること。
26	9			棚卸管理機能
26	9	1		棚卸は携帯端末の入力と、棚卸表による画面での入力の両方に対応できること。
26	9	2		棚卸は在庫単位の入力他に、棚卸単位の入力ができること。棚卸単位用の在庫単位より小さい単位、大きい単位のどちらにも対応できること。（通常は「本」単位で在庫管理をしていて、棚卸時には「〇箱」、「〇本」と入力するなど）
26	9	3		ロット管理品で有効期限が登録されている品目について、有効期限切れ品目、有効期限切れが近い品目は背景色を変更して一目で把握できること。
26	9	4		有効期限切れ品目、有効期限切れが近い品目だけを抽出することができること。
26	9	5		在庫がない品目が登録対象から外れてしまうことを防止するために、棚卸前に全品目の在庫数をゼロとして仮登録ができること。（例えば論理在庫が3本で、実在庫が0本の場合に、品目がないことで棚卸対象として見過ごされてしまい、在庫数3本のまま登録されることを防ぐ）
26	9	6		在庫数の調整だけを行う在庫調整登録と、棚卸損益まで作る棚卸登録と、分けて登録ができること。
26	9	7		棚卸の一時保存ができること。一時保存したデータの削除ができること。
26	9	8		ロット管理品はロット情報の入力ができること。ロット情報は新規のロット情報を追加で入力できごと。
26	9	9		棚卸登録により実在庫に反映できること。
26	9	10		棚卸実績を照会できること。
26	9	11		棚卸実績の修正、削除ができること。実在庫に反映できること。
26	9	12		棚卸中に電子カルテシステムとのインターフェースの受信を一時中止できること。（電子カルテシステムから送信されるデータの受信でリアルタイムに在庫が変動し、棚卸の実施結果が上書きされることを防止するため。）
26	9	13		品目検索や、バーコードの入力により、棚卸一覧の中から該当品目の表示場所の特定が容易にできること。

26	9	14		棚卸記入表を出力できること。画面と同様のイメージで出力できること。
26	9	15		棚卸更新前に棚卸数の確認帳表として、一時保存データをもとに棚卸チェック表を出力できること。
26	9	16		棚卸の実績を記録した棚卸実績表を出力できること。
26	10			入札管理
26	10	1		見積管理機能
26	10	1	1	入札対象の品目、業者を指定できること。
26	10	1	2	複数業者を指定した見積もりと、現行契約業者を継続した見積もりと両方に対応ができること。
26	10	1	3	見積り対象業者ごとに見積依頼書を出力できること。
26	10	1	4	業者向けに希望単価を提示できること。
26	10	1	5	見積金額を見積もる際の参考値として、指定した期間の購入実績数を提示できること。
26	10	1	6	見積依頼書は以下に類する情報を含むこと。 契約予定日、品目名、規格、包装数、メーカー名、定価、公示価格・業価、購入実績数、希望単価、見積単価（業者が記入する項目）、購入単位、契約分類名、契約分類コード、バーコード（業者が記入する項目） Microsoft Excelに出力できること。
26	10	1	7	業者が見積単価を記入した見積依頼書をシステムに取り込む際に、ファイルごとの取り込みと、フォルダ指定による一括取り込みと両方に対応できること。
26	10	1	8	取込み時に見積単価、バーコード、定価、公示価格・業価を更新できること。
26	10	1	9	取込み時にエラーが発生した品目について、エラーログを自動で出力できること。エラーログを見ることでエラーがあった品目と理由が特定できること。
26	10	1	10	見積業者や見積単価が決定している場合には、院内用見積もりファイルをMicrosoft Excelに出力ができ、業者、見積単価を記入して取り込むことで契約情報を作成できること。
26	10	2		落札業者決定機能
26	10	2	1	見積もり結果を品目ごとに一覧表示できること。
26	10	2	2	見積もり結果は品目ごとに、価格が低い順に並び替えができること。
26	10	2	3	品目ごとに最安値の業者に一括で業者決定ができること。同一見積金額があった場合は業者決定しないこと。
26	10	2	4	手動で品目ごとに業者決定ができること。
26	10	2	5	現在の単価より見積金額が高い場合には業者決定しないようにできること。
26	10	2	6	希望落札額を上回る品目は業者決定しないようにできること。
26	10	2	7	業者決定していない品目だけを抽出して再入札ができること。
26	10	2	8	決定結果の修正ができること。
26	10	3		入札結果承認機能
26	10	3	1	落札した業者の品目情報から、一括で契約の作成ができること。
26	10	3	2	業者の指定により、指定業者が落札した品目の契約のみ作成することができること。
26	10	3	3	契約締結日と、契約が有効になる開始日を選択することができること。
26	10	3	4	価格が決定していない場合に仮契約として登録することができること。本契約後に金額の遡及ができること。
26	11			マスタ管理
26	11	1		品目情報マスタ管理機能
26	11	1	1	品目ごとに品目情報のマスタ管理ができること。
26	11	1	2	新規品目を登録時に品目コードの採番が自動でできること。コード採番時は規格違いの品目追加を想定して、下1桁や下2桁を空き番にしてコードが採番できること。
26	11	1	3	コード採番のルールは薬剤、材料など部門ごとに分けることができること。
26	11	1	4	新規品目を登録時に登録済みの品目情報の流用ができること。
26	11	1	5	一般名称や略称などで検索ができるように、検索用の名称を複数登録できること。
26	11	1	6	品目の画像を登録できること。
26	11	1	7	品目としての有効開始日、有効終了日を設定できること。有効開始日を設定することで、事前にマスタを登録しておいて有効開始日以後に品目が有効になるようにできること。有効終了日を設定することで、有効終了日以後は品目が無効になるようにできること
26	11	1	8	有効終了日が切れた品目でも過去の実績分については帳票や画面で参照できること。
26	11	1	9	品目を削除できること。削除対象となった品目を有効なマスタに戻すことができること。
26	11	1	10	品目を完全削除できること。完全削除した品目は戻すことができないこと。
26	11	1	11	請求停止日を設定できること。請求停止日を設定することで、請求停止日以後は診療部門からの請求ができないように設定できること。
26	11	1	12	発注停止日を設定できること。発注停止日を設定することで、発注停止日以後は発注ができないように設定できること。
26	11	1	13	品目のマスタ情報として自由に利用できる項目を複数用意していること。
26	11	1	14	医事会計システムの医事コードを設定できること。また薬価単位、薬価換算値を設定できること。（医事請求漏れチェック機能で利用）
26	11	1	15	新品目のコードを設定できること。
26	11	1	16	品目を新しい品目に移行する場合に新品目コードを設定することで、在庫がなくなるまで移行前の品目を利用し、在庫が無くなり次第、新しい品目に自動的に切り替え処理ができること。
26	11	1	17	勘定科目を階層ごとに5段階で設定できること。
26	11	1	18	購入単位、管理倉庫単位、中間倉庫単位、使用単位、請求単位、棚卸単位の6種類の管理ができ、それぞれの換算ができること。
26	11	1	19	契約情報は複数履歴を持つことができること。契約開始日を未来日に設定することで、該当日以後に発注機能で有効になるように設定できること。
26	11	1	20	契約の複写することで容易に契約の新規作成ができること。
26	11	1	21	契約は仮契約として登録し、契約確定後に金額の遡及ができること。
26	11	1	22	対応するバーコード情報を複数持つことができること。
26	11	1	23	外箱、中箱でGTIN（JAN）が異なる場合に、どちらのバーコードを読み込んでも対応ができること。
26	11	1	24	品目ごとに消費税の非課税、外税、内税を設定できること。複数履歴を持つことができ、日付指定で新しい消費税が有効になる日付を設定できること。
26	11	1	25	消費税情報を複数履歴を持つことができること。
26	11	1	26	消費税について、日付指定をすることで新しい消費税が有効になる日付を設定できること。
26	11	1	27	品目、部門ごとに中間倉庫が設定できること。（例えば管理倉庫を薬剤部、中間倉庫に注射支給室を設定する）
26	11	1	28	品目、部門ごとに品目の使用可否、在庫管理可否、直納可否、棚卸対象可否を設定できること。
26	11	1	29	品目、部門ごとに電子カルテシステムからのデータ受信時の取り扱いを、以下から選択できること、正確に在庫を管理することができること。 ・対象外 ・消費実績のみ作成 ・使用部門から引き落とし ・中間倉庫から引き落とし ・管理倉庫から引き落とし
26	11	1	30	品目の配置場所について棚卸分類、棚名称、棚番号の3段階で管理ができること。
26	11	1	31	電子カルテシステムとの連携マスタはオータ種ごとに作成することができること。単位が異なる場合には換算値を設定できること。
26	11	2		部門品目情報マスタ管理機能
26	11	2	1	品目、部門ごとに設定できる品目情報について、部門指定で品目を一覧表示し、一度に修正ができること。
26	11	3		セットマスタ管理機能
26	11	3	1	部門ごとに複数のセットマスタを登録できること。
26	11	3	2	1つのセットに複数の品目を登録できること。品目ごとに規定値の情報を登録できること。（セットマスタは利用頻度が高い品目を設定したり、口腔外科セットや消耗品セットなど、カテゴリライズして利用を想定）

26	11	4		請求点・発注点保守管理機能
26	11	4	1	診療部門向けの請求点の設定と、倉庫部門向けの発注点の設定ができること。
26	11	4	2	一覧の表示には、すべてのデータの表示と、登録済みのデータだけの表示と、未登録のデータを選択できること。
26	11	4	3	請求点・発注点は複数設定できること。（通常時と、休日前に多めに設定したい場合と分けることができる）
26	11	4	4	部署、品目ごとに設定ができること。
26	11	4	5	品目ごとに適正の設定と、定量的設定と、定期的設定と選択ができること。
26	11	4	6	適正の設定では、請求点・発注点を在庫が下回った場合に、適正の数まで在庫が補充されるように請求・発注データが自動的に作成できること。
26	11	4	7	定量的設定では、請求点・発注点を在庫が下回った場合に、定量的な請求・発注データが自動的に作成できること。
26	11	4	8	定期的設定では、以下の種類で請求・発注データを指定した数量分、自動的に作成できること。 ・月の中で指定した日 ・月の中で指定した週の曜日 ・週の指定した曜日
26	11	4	9	月の月初、月中、月後でそれぞれ請求点・発注点を変えることができること。
26	11	4	10	過去の実績から適切な請求点・発注点をシステムが自動算出できること。算出には払出量や消費量だけでなく、業者からの納品間隔や安全在庫日数が考慮されていること。
26	11	4	11	自動算出では払出量や消費量だけでなく、業者からの納品間隔や安全在庫日数が考慮されていること。
26	11	4	12	登録した請求点・発注点を他部門にコピーすることができること。既にコピー先にマスタ設定がある品目については、上書きするか、上書きしないかを選択できること。
26	11	4	13	コピー時には既にコピー先にマスタ設定がある品目については、上書きするか、上書きしないかを選択できること。
26	11	4	14	バーコードの入力により、品目の一覧の中から該当品目の表示場所の特定が容易にできること。
26	11	5		定数マスタ管理機能
26	11	5	1	定数カード、定数シール、定数カート交換方式のいずれの方式にも対応できること。
26	11	5	2	有効開始日の設定により複数の履歴を持つことができること。
26	11	5	3	診療部門ごとに複数の定数を持つことができること。
26	11	5	4	前回履歴からマスタを複写して新規に作成することができること。
26	11	5	5	診療部門、品目ごとに定数の入数を設定できること。
26	11	5	6	定数ごとに品目の表示順を設定できること。
26	11	6		統合マスタ管理機能
26	11	6	1	新規に品目を追加した場合に、マスタメンテの効率を上げるために、品目単位にセットマスタ、請求点・発注点マスタ、定数マスタを1画面で登録ができること。
26	11	7		マスタ取込機能
26	11	7	1	マスタの管理効率化を上げるために品目マスタ情報をMicrosoft Excelファイルでマスタ管理ができること。
26	11	7	2	マスタの管理効率化を上げるために定数マスタ情報をMicrosoft Excelファイルでマスタ管理ができること。
26	11	7	3	マスタの管理効率化を上げるために業者マスタ情報をMicrosoft Excelファイルでマスタ管理ができること。
26	11	7	4	マスタの管理効率化を上げるためにメーカーマスタ情報をMicrosoft Excelファイルでマスタ管理ができること。
26	11	7	5	マスタの管理効率化を上げるために部署マスタ情報をMicrosoft Excelファイルでマスタ管理ができること。
26	11	7	6	Microsoft Excelに現状のマスタ情報を出力できること。修正だけでなく、新規マスタの追加にも対応できること。
26	11	7	7	マスタ取込用のフォーマットシートは必須項目の背景色を変更することで判別できること。
26	11	7	8	取込時にエラーが発生した場合は、エラー発生行と、エラー理由が出力できること。
26	11	8		その他 マスタ登録機能
26	11	8	1	システムで扱うすべてのマスタの登録、修正、削除ができること。
26	12			参照機能
26	12	1		各種データ照会機能
26	12	1	1	物流システムに登録されているあらゆるデータを、設定により自由に画面表示できること。
26	12	1	2	画面表示したデータをMicrosoft Excelに出力できること。
26	12	1	3	画面表示したデータをCSV形式に出力できること。
26	12	1	4	画面表示を3秒以内にできること。
26	12	1	5	明細に表示する項目を自由に選択できること。
26	12	1	6	明細に表示する並び替え条件を自由に選択できること。
26	12	1	7	選択した表示項目と並び替え条件を保存できること。（毎月、決まった統計帳票を出力する場合は、条件を呼び出すだけで容易に出力できること。）
26	12	1	8	明細表示後に自由に明細の並び替えができること。
26	12	1	9	明細表示後に自由に列の並び替えができること。
26	12	1	10	関連する業務画面と連携して表示できること。（納品データの表形式の明細であれば、該当する納品画面を表示。品目データの表形式の明細であれば、品目情報保守画面を表示。）
26	12	2		受払照会機能
26	12	2	1	対象部門と期間指定、品目指定により受払情報の照会ができること。
26	12	2	2	ロット番号単位で受払情報を照会したい場合は、ロット番号の指定ができること。
26	12	2	3	該当期間の受け数と、払い出し数、残数の合計値が表示できること。
26	12	2	4	集約モードによる日単位での受け数、払い出し数の合算値の表示と、表形式の明細単位での受け数、払い出し数の表記と選択ができること。
26	12	3		発注照会機能
26	12	3	1	期間指定を発注情報を確認できること。
26	12	3	2	品目種別を検索条件に設定できること。
26	12	3	3	未納分がある発注情報のみを検索条件に設定できること。
26	12	3	4	棚区分を検索条件に設定できること。
26	12	3	5	日付ごと、品目ごとに発注数、納品数、未納数を表示できること。
26	12	3	6	未納分がある発注は、表形式の明細から納品管理画面と連携して該当する納品情報を表示できること。
26	12	3	7	画面表示している発注情報をMicrosoft Excelに出力できること。
26	12	4		在庫照会機能
26	12	4	1	部門単位で在庫が表示できること。
26	12	4	2	品目単位で在庫が表示できること。
26	12	4	3	表形式の明細ごとの在庫金額と、在庫金額合計が表示できること。
26	12	4	4	品目ごとに集約した在庫情報と、品目契約ごとに展開した在庫情報と選択できること。
26	12	4	5	ロット指定により、ロットごとの在庫情報が表示できること。
26	12	5		患者使用照会機能
26	12	5	1	使用した物品の履歴が確認できること。
26	12	5	2	様々な視点で原価情報を分析するために、以下の条件の組み合わせで使用した物品の材料費を抽出できること。 ・期間指定 ・患者別 ・品目種別 ・診療部門 ・診療科 ・品目 ・診療科 ・手技（手術名称）
26	12	5	3	患者別に物品の使用した材料分の金額表示ができること。
26	12	5	4	画面表示している使用情報をMicrosoft Excelに出力できること。
26	12	6		Microsoft Excel出力機能
26	12	6	1	品目マスタ情報をMicrosoft Excelに出力できること。

26	12	6	2	納品情報をMicrosoft Excelに出力できること。
26	12	6	3	出庫情報をMicrosoft Excelに出力できること。
26	12	6	4	消費情報をMicrosoft Excelに出力できること。
26	12	6	5	棚卸情報をMicrosoft Excelに出力できること。
26	13			データ整理機能
26	13	1	1	各日時データを別のテーブルに移行ができること。移行により画面表示が不要な過去データを非表示にすることができ、またレスポンスの改善ができること。
26	13	2	2	移行したデータの復旧ができること。
26	14			帳表
26	14	1		請求帳票機能
26	14	1	1	請求一覧表 部門別が出力できること。
26	14	1	2	請求一覧表 品目別が出力できること。
26	14	1	3	未払一覧表が出力できること。
26	14	1	4	未入庫一覧表が出力できること。
26	14	2		消費帳票機能
26	14	2	1	破棄・破損一覧表が出力できること。
26	14	3		払出帳票機能
26	14	3	1	払出指示表（ピッキングリスト）が出力できること。
26	14	3	2	受払台帳が出力できること。
26	14	3	3	払出実績表が出力できること。
26	14	3	4	払出台帳が出力できること。
26	14	3	5	返品一覧表が出力できること。
26	14	3	6	年次受払簿が出力できること。
26	14	4		定数帳票機能
26	14	4	1	定数（バーコードカード・シール）が出力できること。
26	14	4	2	定数補充一覧表が出力できること。
26	14	5		発注帳票機能
26	14	5	1	発注書が出力できること。
26	14	5	2	バーコードラベルが出力できること。
26	14	5	3	発注予定一覧表が出力できること。
26	14	5	4	発注実績一覧表が出力できること。
26	14	6		納品帳票機能
26	14	6	1	購入台帳が出力できること。
26	14	6	2	購入実績表が出力できること。
26	14	6	3	購入合計表が出力できること。
26	14	6	4	未納品一覧表が出力できること。
26	14	6	5	購入金額順位表を出力できること。 順位、購入金額、定価（薬価）金額、購入差益の出力ができること。 出力順ごとの小計および合計が出力できること。
26	14	6	6	購入ABC分析表を出力できること。 順位、品目名、購入金額、対全体比、累計金額、累計比率、定価（薬価）金額、定価累計、累計比率の出力ができること。 定価累計、累計比率の出力ができること。 分類順ごとの合計が出力できること。
26	14	6	7	予算残高一覧表を出力できること。 予算科目ごとに、各月の予算状況の一覧表が出力できること。 予算科目、予算額、月々の購入額、月々の予算残額が出力できること。
26	14	7		在庫帳票機能
26	14	7	1	棚卸表が出力できること。
26	14	7	2	棚卸実績表が出力できること。
26	14	7	3	棚卸損益一覧表が出力できること。
26	14	7	4	現在庫数一覧表が出力できること。
26	14	7	5	月締め在庫一覧表が出力できること。
26	14	7	6	有効期限切れ警告リストが出力できること。
26	14	7	7	不動在庫リストが出力できること。
26	14	7	8	在庫資産表が出力できること。
26	14	8		入札帳票機能
26	14	8	1	見積依頼書を出力できること。
26	14	8	2	入札決定一覧表を出力できること。
26	14	8	3	入札未決定一覧表を出力できること。
26	14	8	4	落札通知書を出力できること。
26	14	8	5	入札新旧差額一覧表を出力できること。指定した期間の購入の実績金額と、業者決定済みの新価格に変更時の購入金額の差額を業者ごとに出力でき、購入金額がどのように変わるかシミュレーションができること。
26	14	8	6	入札内訳書を出力できること。
26	14	9		マスタ帳票機能
26	14	9	1	各種コードブック（各種マスタの一覧表）が出力できること。
26	14	9	2	マスタ削除リストを出力できること。
26	14	9	3	契約履歴リストを出力できること。
26	14	10		他システム接続帳票機能
26	14	10	1	職員マスタ連携エラーリストが出力できること。
26	15			物流分析
26	15	1		受払情報分析
26	15	1	1	部門ごと、品目ごとの在庫数の推移をグラフによって視覚的に確認できること。期間指定ができること。
26	15	1	2	グラフの切り替えと、受払の明細情報の表記切り替えができること。
26	15	2		在庫情報分析
26	15	2	1	情報を定期的に最新情報を自動更新できること。更新するタイミングは設定できること。
26	15	2	2	在庫切れの予測は在庫数だけから導き出すのではなく、指定期間の消費量や払出量、業者からの納品期間を考慮して在庫残量による想定保有日数を導き出せること。
26	15	2	3	想定保有日数が一定の日数を下回る品目をアラーム表示できること。
26	15	2	4	アラーム表示できる一定の日数は設定により変更できること。

26	15	2	5		品目の種類ごとに在庫金額の月ごとの推移がグラフによって視覚的に確認できること。前年度との比較を表示できること。
26	15	2	6		在庫金額の推移は前年度との比較を表示できること。
26	15	3			購入情報分析
26	15	3	1		品目の種類ごとに購入金額の月ごとの推移がグラフによって視覚的に確認できること。
26	15	3	2		購入金額のグラフは前年度との比較を表示できること。
26	15	4			請求点・発注点情報分析
26	15	4	1		適切な請求点・発注点を過去の実績からシステムが算出できること。
26	15	4	2		算出は指定期間の消費量や払出量、安全在庫日数、業者からの納品期間を考慮して適切な請求点・発注点を算出できること。
26	15	4	3		算出した請求点・発注点を適用した場合に、過去のデータから在庫量がどのように変動するかをシミュレーションできること。結果をグラフ上に表示し、適切な設定値の設定に役立つ情報の表示ができること。
26	15	4	4		算出した請求点・発注点を請求点保守画面に反映し、画面上で修正しながらマスタに適用できること。
26	15	5			定数情報分析
26	15	5	1		適切な定数を過去の実績からシステムが算出できること。
26	15	5	2		算出は指定期間の消費量や払出量、安全在庫日数、業者からの納品期間を考慮して適切な定数を算出できること。
26	15	5	3		算出した請求点・発注点を定数マスタメンテナンス画面に反映し、画面上で修正しながらマスタに適用できること。